

# 同窓会通信

2008号

この同窓会通信は、広島工業大学附属広島高等学校・中学校の学校通信2007.4～2008.3をダイジェスト版に編集したものです。

## 会長あいさつ



同窓会会長  
森中 祥二

緑樹の候 皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本同窓会の活動をさらに活発化し、同窓生の絆を深めることを目的とした同窓会通信も2年目を迎えました。皆様からは、同期会開催や近況報告などを多数お寄せいただき、そのご健勝ご活躍ぶりに大いに励まされました。また、前号でお願いいたしました「同窓会通信製作協力金」に395名の方からご厚志を賜り、ここに厚くお礼申し上げます。

この春、我が母校の校名が「広島なぎさ中学校・高等学校」へと変わり、校舎も8月になぎさ公園小学校隣接地に新築移転します。感慨ひとしおではございますが、母校のさらなる発展を皆様とともに祈りたいと思います。また平成18年12月に逝去されました鶴 襄 名誉総長先生の銅像建立の募金にご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会通信協力金もあわせて、お願ひ申し上げます。

## みんな元気です！同期生集合！



### 1期生(広一会)同期会

2007年10月13日、広島グランドインテリジェントホテルにて開催。人生これから！還暦パワーを見てください！有志の皆様から同窓会活動協力金等67,671円の寄附をいただきました。



### 2期生(広二会)～福見先生を囲んで～

2007年12月に開催。福見先生を迎え、青春時代にタイムトリップ！広二会は毎年幹事を引きつぎながら、12月第1土曜日に開催しています。



### 12期生同期会

2008年1月18日、ANAクラウンプラザホテルにて開催。同期会メンバーが集まりました。次回は多くの仲間と開催したいと計画しています。ぜひ参加してください。母校のますますの発展を祈念しています。

## 2008年4月から校名が広島なぎさ中学校・高等学校に変わりました

### 校長先生あいさつ



校長  
白岩 博明



同窓会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、一昨年、鶴学園が50周年を迎え、その50周年記念事業の一環として学園内各学校でさまざまな事業が行われました。本校においては老朽化した校舎の建て替え事業を行うことになり、8月、佐伯区海老山南に新校舎が完成します。そして、この機会を改革の期とすべく、校名改称とともに新たなスタートを切ることになりました。小中高一貫教育と転地先のイメージを取り込んだ校名へと改称いたしました。これまで通りの校風は何ら変わるものではございません。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

# 新しい体験を通して視野を広げる。

## 中2ニュージーランド交換留学

今年も5月12日(土)～24日(木)まで、ニュージーランドのパサデナ中学校から15名の留学生が来校しました。多くの生徒達が共に授業をうけ、様々な体験を共有する中で交流を深めることが出来ました。

歓迎会では、生徒達がお手玉、独楽、けん玉を披露しました。歓迎会の日からパサデナ生もお手玉を練習し、歓送会では本校の生徒と一緒に披露することが出来ました。パサデナ生にお手玉、あやとりといった日本文化を教えながら、生徒達は外国の友人に日本文化を伝える喜びを知ったようです。歓送会では、パサデナ生と生徒達が一緒に完成させたクラス旗とクラス飾りが飾られました。

また、本校の生徒達に交じって、白岩校長先生が飛び入りでボールリフティングを披露されました。歓声と賑やかな歌声の響く心温まる会となりました。生徒達はパサデナ生との交流を通して、大切なのは伝えたいという気持ちだと学びました。

パサデナ生は留学中に宮島、平和公園、マツダの工場を見学し、本校では華道や書道を体験しました。授業にも積極的に参加し、生徒達と互いに良い影響を与え合うことが出来たようです。

7月には本校の交換留学生15名がニュージーランドに向かいます。生徒達は大きな期待を持ち、新たな体験を待ち望んでいます。



「冷やし手抜きうどん」を作りました!



大縄も一緒に練習しました!



パサデナ生に熱心に質問していました。



宮島見学では高校生のガイドに聞き入っていました。

私は今回のホームステイの受け入れで英語の楽しさや言葉が伝わる喜びを学びました。Josieちゃんが来るまでは、外国の人と話すのは伝わるかどうか分からないので苦手だなと思っていましたが、今はジュスチャーや伝えたいと思う気持ちがあれば伝わるのだと思います。(2年2組 岡田 櫻子)

うどんを試食するとき箸が上手く扱えないJarrod君に使いかたを教えてあげたのですが、今思えばあの時僕は異国の人に自分の文化を教えていたのだと気づきました。Jarrod君は箸を使えるようになり、自分の文化が異文化の人に伝わったことが嬉しくたまりませんでした。(2年3組 増喜 直人)



歓送会はパサデナ生と一緒に作り上げた会となりました。

日本とNZの文化交流の中でNZのすばらしい文化をたくさん知りました。また、日本の素晴らしい文化も実感することができました。交換留学で私が期待していた「日本人としての誇りを持つ」ということが少し達成出来ました。NZへ行く前にしっかり準備をして、この交換留学をより良いものに使いたいです。(2年1組 中村 実咲)

パサデナの留学生は授業中に積極的に手を挙げて発言していた。それを見て、僕はすごいな、と感心して、僕がどれだけ積極的に発言していないかがよく分かった。17日、18日にパサデナの留学生が平和公園と宮島に行っている時、なんとなく寂しかった。おそらく僕はクラスの一員としてパサデナの留学生を見ていたから、寂しかったのだろうと思う。(2年4組 長谷川 貴大)

## 中2研修旅行

夏休み前から執筆を始めた『研修旅行記』を片手に、今年も中学2年生は奈良・京都へ3泊4日の研修旅行へ行ってきました。仲間とも協力しつつ見学地の調べ学習をしっかりと行い、現地では本物のもつ凄さに圧倒された4日間でした。1日目は東大寺大仏殿の前に思わず言葉が失い、法隆寺エンタシス柱の曲線に感動しました。2日目の明日香サイクリング研修では古代の風を体全体で感じる事ができました。3日目の京都タクシー研修では金閣寺の輝き、銀閣寺の静けさに感動したのはもちろん、タクシーの運転手さんとの交流も良い思い出になりました。4日目は京



エンタシス柱の曲線に感動(法隆寺回廊)

都大学訪問を初めとしてコース別研修を行いました。そして、旅行後に実施した研修旅行記コンテストを通して、学びをより深いものにすることができました。

## 奈良・京都 日程/平成19年10月9日(火)～12日(金)



大仏の大きさに絶句(東大寺にて)



私は今までメモをとるという習慣はゼロでした。何か思っても「あとで書けばいいや」と、どんどん後回しにしていました。案の定、大切なところが抜けていたり、自分がどう思っていたのかなども忘れてしまい、あやふやな感じになっていました。でも、この研修旅行を通して、すぐにメモにとるという習慣が身につく、まとめるときなど大いに役立ちました。すごく単純な作業かもしれないけれど、書き留めるということはとても大切なことだなあと感じました。(2年4組 岩本 真衣)

# 自ら学ぶ姿勢を身につける。

## 人間科授業～パキスタンとの交流～



手紙を書いたカイナットちゃん(右)



今年4月23日、中1人間授業  
渡部朋子さん(Ant-Hiroshima代表)による講演

昨年度の4月、中学1年2組では人間の授業で渡部朋子さん(Ant-HIROSHIMA代表)の講演を聞きました。それをきっかけに2005年10月にパキスタン北東部、カシミール地方で起きた大地震による被災地の状況やパキスタンの人々の生活や文化を研修し文化祭で発表しました。文化祭で募金を呼びかけたところ多くの方々のご協力もあって、10,824円の募金を集めることができました。その募金と生徒一人ひとりが英語で書いた手紙を今年3月パキスタン

を訪問した渡部さんが被災地で苦しむ人たちに手渡してくださいました。そして今年4月、中学1年の人間の授業の講演の際、渡部さんから、パキスタンの子供たちからの返事や腕輪などのプレゼントを写真と一緒にいただきました。生徒たちは人間の授業を通して、平和を築くために自分たちに何ができるのかを考え、今後さらなる交流を深めていくことでしよう。

広島工業大学  
附属中学校の皆  
さん、こんにちは。  
私の名前はカイ  
ナットです。私は  
カシミールの全ての

子供たちを代表してこの手紙を書いて  
います。あなた達が書いてくれた素敵  
な手紙を全て読ませていただきました。  
とても気に入っています。私たちはあ  
なた達みんなにムザファアラバード  
に来てもらいたと思っています。ムザ  
ファアラバードは本当に美しいところ  
です。気候もとても良いんですよ。

貞子基金の学校への多くの募金をあ  
りがとうございました。

あなた達が幸せでありますように。  
どんな困難なときでも、神があな  
たを助けますように。

カイナット・アリ



現地の子供達から頂いたプレゼント。  
家族の生活を支えるため、幼いころから  
アクセサリーや織物などを作っています。



2006年4月 ▶	2006年9月	▶ 2006年10月 ▶	2006年11月	▶ 2006年12月 ▶	2007年4月		
人間LHR Ant-Hiroshima代表渡部朋子さんによる講演。	1年2組による文化祭展示のテーマを「PEACE ROAD」に決定。	Ant-Hiroshima事務所訪問(23名参加)。	NGO 平和団体HOPE87の代表 山口ベルトさんより被災地について講義を受ける。	現地でボランティア活動をされた原田智佳さん、藤井富美さんが来校。	文化祭展示。	渡部朋子さん来校。文化祭で集めた募金を手渡す。	中学1年の人間の授業で渡部朋子さんによる講演。

## 中3学習合宿

10月10日(水)～12日(金)、中学3年生は沼田校舎で学習合宿に臨みました。中3生は、現在中高一貫6か年の第2ステージに進み、基礎学力の完成と応用学力を身につける段階に入ってきており、また自分の進路について真剣に考え始めなければならない時です。この合宿ではその両面から計画の実行がなされ、教科学習の基礎、発展を目指す授業がそれぞれ行われました。

また、外部講師および高校Ⅲ年生による講演では、進路を切り開き、前進して行くための心構え等を聞いて、今後の進路選択の礎とすることができました。学習の充実と進路展望を切り開くきっかけとなる合宿となりました。



授業、確認、そしてテスト



Ⅲ-2 吉本 明未さん



Ⅲ-5 伊勢田 憲史くん



真剣に講演を聞く生徒達

高Ⅲの吉本先輩は夢を持つことの大切さを教えてくれた。伊勢田先輩は、自分のサッカーの経験を通してすごく分かりやすく、色々なことに結びつけてくる「目標」について話してくれた。やっぱり共通点としては「継続」することの大切さだ。今回の学習合宿を通し、勉強することの楽しさは見えてきた。今回の講演をしっかりと胸に刻み、生活していきたい。 3年2組 山口 仁視

講演に来てくださった先輩は二人とも努力をしている。夢をしっかりと持っている。やっぱり夢を持たないといけないのだと思った。夢を持ったらそれを目指してやっていけばいい。夢を叶えるためには努力をしなければならない。夢を持っている先輩は二人ともよい顔をしていた。だから自分もまずは夢を見つけることから始めて、その夢を叶えるために努力したい。 3年4組 庭田 一平

# 自然と人との共生に“生き方”を学ぶ。

## 高Ⅰ 屋久島・もののけ姫の森体験コース

屋久島 日程／平成19年7月22日(日)～27日(金)



初日に、屋久杉記念館や紀元杉を見て回り、2日目以降は3つのグループに分かれて、フォレストウォーキング、スノーケリング、カヤックによる安房川自然ウォッチングを、日替わりで行いました。5日目は、今年より新たに始まった「地元の文化に触れる体験プログラム」でした。稲刈り体験などで汗を流した後、流しソーメンや地元名産のトビウオ、手作りの煮染めに舌鼓を打ちました。地元の方々の温かいもてなしに、生徒たちは「田舎に帰ったようだ」と大喜びでした。夜には、民宿のオーナーであり、屋久島の自然保護運動の旗手と呼ばれた柴さんのお話を伺う機会に恵まれました。生徒たちは真剣に耳を傾けながら、自然遺産としての屋久島とその土地に住まう人との関係について考えさせられたようです。

今回の研修旅行を通じて、五感をフルに使って大自然を満喫することができ、その自然を保護し、維持し続けるために地元の方々やエコガイドの方々が多様な苦勞を重ねていることも併せて実感できた、大変充実した研修旅行でした。



切られた竹の食器で食べる、貝の入ったお味噌汁、薩摩揚げ、魚の塩焼き…。夏の日差しの中、石に腰掛けて食べる手作りの料理。これが美味しくないわけがありません。たくさんの昼食を作ってくださいたり、親切に話しかけてくださったり、様々なことを教えてください…。屋久島の方々には本当にお世話になりました。どれだけ感謝してもしきれません。屋久島の人々との交流を通して、私もいつも親切で温かい心を持った人間でありたいと改めて思いました。 Ⅱ年2組 谷口 詩織

屋久島は、自然を中心として人間が生活している島だということが一番よく伝わってきました。まず、自然があって、次に人間が自然の恵みを受けて生活させてもらっているという考えのもとで、屋久島は成り立っていると思いました。それが本来の自然と人間との関係だと思いました。 Ⅱ年5組 大浜 諒子

## 高Ⅱ 北海道・カヌー体験コース

北海道 日程／平成19年7月22日(日)～27日(金)



「百聞は一見に如かず。」まさにその通りだった。北海道の自然の雄大さ・すばらしさを、インストラクターの方の説明だけでなく、自分の五感で感じる事ができ、とても貴重な体験をすることができたと思いました。

Ⅱ年5組 笹木 恭兵

北海道カヌー体験コースは阿寒湖・釧路川でのカヌー体験を中心にさまざまな体験をすることができました。釧路湿原に囲まれた釧路川を下りながら雄大な自然をのんびりと感じつつ、雲ひとつない晴天のなか汗をかきながら目的地まで下りきる達成感を味わいました。今回の研修旅行を通じて、生徒たちはカヌーそのものを楽しむなかで、ペアの人と互いに協力してカヌーを操縦する楽しさも感じる事ができたのではないのでしょうか。そして、なにより普段の生活では感じる事のできない自然を肌で感じる事ができました。

## 高Ⅱ マレーシア・サラワクスタディツアー

マレーシア 日程／平成19年7月21日(土)～31日(火)

約半年前から約20回の事前学習を行いました。何が本当の幸せか、今の日本は豊かなのかなど率直に意見を交換することで、日本の問題や優れた点を浮き彫りにしました。そうしてサラワク研修に問題意識を持って望む準備をしました。

マレーシアに行くからは、油ヤシプランテーションの見学、合板工場の見学を通して日本とマレーシアのつながりと日本の繁栄の裏にある多くの人の働きに気づきました。ロングハウスでの生活ではイバンの人々と交流をはかりました。最初は緊張した面持ちであった生徒もイバンの人たちの笑顔や温かい心遣いにすぐうち解け、あっという間に各家族の一員となっていました。

旅行前は体力が心配されたメンバーでしたが、そうは思えないくらい果敢に積極的にジャングルウォーキングや農作業体験などにも参加していました。その後の振り返りミーティングでは、マレーシアに対する偏見を持っていたことが全然正しくなかったこと、人と人とのつながりを大切にしたいことなどの発表を通して、それぞれの生徒が一皮むけて大きくなった様子を感じることができました。

今後はさらに理解を深める事後学習を経て、今回の研修旅行で学んだことを多くの人々に伝えていきたいと考えています。



イバンの民俗衣装を着る生徒

# 多彩な文化と心の交流が成長の糧に。

## 高Ⅱ イギリス・語学研修と世界の友人に出会う旅

イギリス 日程／平成19年7月24日(火)～8月10日(金)



何とか伝えたい!

ヒースロー空港から南にバスで1時間、イギリス南西部の自然に囲まれた小さな田舎町ハーストピアポイントで実施された語学研修に高校Ⅱ年生35名が参加しました。総計34カ国、1,200人以上の生徒が学ぶ語学学校(名称:マナーコース)での2週間、寮生活をしながら午前は英語授業、午後はスポーツやアート、ダンス、ドラマ、映画鑑賞などのアクティビティから好きなものを選んで参加しました。

- ・とにかく自分からコミュニケーションを取ろうとしないと何も始まらない。様々な形でそれを繰り返すことで親密な人間関係が形成されていく。
- ・コミュニケーションは自分達の生きる世界で一番とっていいほど大切なものだった。
- ・出来るだけたくさん授業で発言できるよう必死だった。この17年間と同じくらい濃くて楽しい2週間だった。
- ・自分が主張したいことを伝えるまで何度も説明した。
- ・文化が違うということは面白い経験で腹が立つこともいっぱいあったけど、その文化を認めていくことが大切だった。
- ・日本人である私は西洋人とは何もかも違うからこそ感じる事ができた事がたくさんあった。日本人らしさを忘れないことが大切だった。



修了証書授与式

タレントショーは夜のメインイベント。プログラムのオープニングを飾るバトンの3名、そして最後はソーラン節を披露しました。辛い放課後練習の甲斐あって2回のリクエスト公演となるほどの大盛況でした。

レベル別20数クラスに分けられた英語の授業では、どんどん発言する他国の生徒に圧倒されながら、生徒たちは必死に食らいついていきました。自分から意思表示しない限りは伝わらない

チャレンジの毎日、しかし伝わった時の喜びもまた大きかったようです。そしてこのチャレンジは寝るまで続きました。

ただ英語を学ぶのではなく、毎日の生活から様々なことを学びました。時には言葉なしでも伝わる気持ち。英語をコミュニケーション手段とした多文化の生活で、自己表現や異文化を受容する大切さ、そして世界の大きさを学んだ忘れられない夏となったようです。

## 高Ⅰ ニュージーランド語学研修

ニュージーランド 日程／平成19年7月21日(土)～8月13日(月)



ドラマ(英語劇)の発表

高校Ⅰ年生28名がニュージーランド語学研修に参加。約3週間ホームステイを体験し、ワイカト大学のランゲージインスティテュートで語学研修を受けました。ホストファミリーに「家族」として受け入れてもらい、その愛情を実感した生徒の多くは「英語は人と人が「相手に思い」を伝える

ための「道具」である」ことに気づいたようでした。また、異国の地で8月6日を迎え、例年とは違った視点で戦争について考えることもできました。英語を通して、人々の優しさと平和の大切さを学んだ3週間でした。

## 高Ⅰ 社会人講演会

去る12月17日(月)、来年度の文理選択を控えた高校Ⅰ年生を対象に、本校の特色教育「人間科」授業の一環として社会人講演会を実施しました。生徒たちは、8つの分科会(講演)から希望する2つの分科会を事前に決定し参加します。また、本年度より分科会に加え、パネルディスカッション(講師4名ずつ2会場に分割)を実施し、より多くの講師の話を聞くことができました。生徒たちが講師の話を通して、仕事のもつ社会的(本来的)意義や、仕事に対する使命感などを知り、積極的な進路選択ができることを願っています。



栗屋氏による講演



パネルディスカッション

「やりがい」のある仕事につきたいと思ってはいたけど、最初から分かっていなかったっていいのではないかと思った。仕事を実際にして、経験してからでないと分からないこともあるので、もっと別の方向からも仕事を見てみようと思う。Ⅰ年1組 保出 裕美

いろんな現場で働く方々の話を聞いていて思ったのは、仕事は楽しいこと以上に苦しいことがたくさんあるということ。それでもその仕事を続けていけるのは、いかにその仕事が好きであるかということだと思う。Ⅰ年2組 白井 里紗

### 講師の先生方

荒川 共生	特定非営利活動法人アジアボランティアセンター事務局長
栗屋 仁美	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科准教授
加藤 正巳	(株)河合楽器サービスセンター技術課 調律師
酒井 美奈子	中電病院総看護師長
田中 一範	(株)田中倉庫運輸代表取締役
田中 千秋	田中法律事務所 弁護士
福田 由美子	広島工業大学工学部建設工学科准教授
飯井 和夫	中国新聞社メディア企画部部長・編集委員

(敬称略)

三宅キャンパス感動の集大成!!  
この熱い思いは新キャンパスへ!

現校舎では最後となる今回の文化祭を今までの集大成とし、また思い出の「轍」として心に残る文化祭にしたい…。その思いをテーマに込めました。



メインステージ  
躍動感に満ちた華やかなダンス



バンドステージ  
大音量の演奏でみんなを圧倒!!



II-4 とくやマシーン  
ピタゴラススイッチを上回る仕掛けと規模にみんな驚きました。



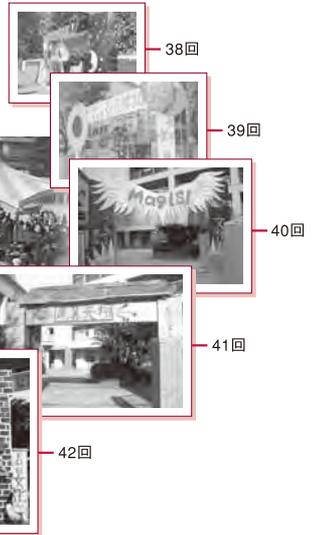
I-4 スイートポテ夫  
味がいろいろ選べるサツマイモスティックに、頬を落としました。

祭

高校生が中心となつての創造性に富んだ催しや、ステージでの華やかなダンス、バンド演奏などなど、大いに盛り上がりました。



43回 中学3年1組製作  
「未来への足跡」



学び

生徒たちは、合唱や学校での学び・行事を通しての成果、研修旅行での収穫など、自分が感じたこと、学んだことを、それぞれ工夫を凝らして発表・展示しました。この文化祭の思い出の「轍」は、「広島なぎさ中学校・高等学校」と校名を変更し、新校舎へと移転しても、受け継がれていくことでしょう。

この校舎で行う最後の文化祭になるので、私達は先輩方が築かれてきた文化祭を辿って今年の文化祭につなげたいと思いました。そこで、正門の両サイドに過去に先輩方が作られた正門の写真をはり、それを見ながら進むと私達中学3年1組が作った正門に辿り着けるようにしました。3年1組 齋藤 優利奈

中学1年 合唱“響け～きょうりょく～”  
展示“GET-手に入れたもの-”



クラスで練習した成果を披露



今までの学習を振り返り、自分の成長を楽しみながらの作業

もし来年も合唱コンクールがあるなら、皆でさらに協力し、助け合いながら優勝したいと思います。新校舎での第一回目の文化祭も、来年入学してくる新一年生をあとと驚かせ、いい学校だと思ってくれるものになりたいです。  
1年5組 大高下 洋平

中学2年 研修旅行展示

ちぎり絵  
(That's Kyoto)



私は京都を担当しちぎり絵を作りました。細かな作業でもとても疲れましたが、同じ班の人たちと協力して、どうにか期限までに作ることができました。私がこの文化祭で学んだことは、協力の大切さです。  
2年2組 豊田 絵理

中学3年 平和メッセージ



平和学習の一環として、「原爆ドーム」のモザイク画と「明日の神話」の立体的レプリカを作成しました。作品を通して平和であることの重要性和難しさを知りました。



ロミオとジュリエットを基にした演劇“Love&Peace”。作品を通して訴えたかったのは、差別がない世界の素晴らしさ。意見をぶつけ合う中で、クラスの結束もいっそう強まりました。



平和への祈りを託し、毎日コツコツと折り鶴を折り、五千羽の折り鶴に思いを託した巨大モザイクなど、一万羽以上の折り鶴を作りました。



教室を半分にし切り、片方には笑顔、もう片方には悲しんでいる顔や泣いている顔の写真を張り、それに関連した内容について模造紙にまとめたり模型を作ったりして発表をしました。

高校2年 マレーシア研修旅行

マレーシア研修旅行に参加した高校生は、10分間の番組「ニヤマイ～素敵なイバンの暮らし」と体験記「Rumah Panjai～長い家の住人たち」を制作。編集作業は全て生徒の手によって進められ、番組は体育館ステージで上映され、体験記は来場者に配布されました。

Rumah Panjai  
(ルマ・パンジャイ)の表紙



マレーシアに行く前、私たちはどんな本を作ろうかとたくさん話し合いました。そして、私たちの体験記は「ロングハウス」に注目することにしました。イバンの人たちの生活をロングハウスを通して読者の人たちに知ってもらいたかったからです。日本とは全く違う異空間の中でたくさんのことが私たちの中に自然と入ってきました。それを日本に帰ってきてから「言葉に表す」という作業をしました。この本を通してマレーシアの輪を拡げることができてよかったと思っています。  
II年4組 福長 奈実

高校1年 ニュージーランド語学研修

英語による  
プレゼンテーション



私たちは文化祭準備中、ニュージーランドで味わった最高の感動や経験をいかに上手く伝えるかを必死に考えました。その結果、英語でのプレゼンや写真展示といった手段で見に来て頂いた人の心を動かすことができたと思います。本当に大変だったけれど、私にとって最高の思い出となりました。I年1組 神村 千香子

# 明確な目標を持ち、心豊かに生きていくために。

## 卒業生による進路講話



**柿木 基志** 九州大学 機械航空工学科  
機械工学専攻2年

国立大学を狙うならば、なにがなんでもセンター試験をしっかり取る。センター次第で情勢は、良くも悪くも大きく変わってきます。受験勉強は、大学に合格するだけの意味しか持たないのではなく、それを通して、夢について深く考え、自分をより知る機会にもなり、勉強面でも「自分流」を確立できると思います。友人関係深く広くなり、親に対する感謝の気持ちも大きくなりました。勉強も大切ですが、高校生活という短い期間をいかに楽しく爽快地に過ごすかということが一番に考えてください。そして、友だちは大切に。ここで得た友だちや思い出が、人生の財産になると思います。



**鯨島 克佳** 広島大学  
医学部医学科1年

推薦やAO入試を受ける人は学習時間を確実に確保することに注意してください。浪人中は自分がなぜその進路を選んだのかを再確認することで学習へのモチベーションが維持できました。今心に抱いている志を忘れることなく自分の夢を掴む努力を続けることが大切です。広島大学の医療系の学部では、他学部の人と班を作り、学習や実習を行う機会があります。将来チーム医療を行うために学生時代からコメディカルの人との働きを知ることは大切だと思います。1年のうちに早期体験実習で現場の様子を見ることができるとも広島大学の特徴だと思います。



**森谷 真紀** 筑波大学 人文・文化学群  
日本語・日本文化学類1年

学校が用意してくれる機会を積極的に利用すれば、そこから希望の進路やその進路に進む際のヒントが見えてくるかもしれません。私の場合は、中2のときのニュージーランド交換留学と、高3のときの友人との会話が大学入試を大きく変えました。勉強ももちろん重要ですが、今やらなければならない最低限のことを考え、妥協せずこなしていくことが必要です。筑波大学は総合大学で、サークルや委員会などで簡単にさまざまな学群・学類の人と仲良くなれ、いろいろな考えに接することができます。各学群・学類の敷居も低く、自分の学類以外の授業でもある程度自由に受講できます。

## 表彰

### 鶴学園読書感想文コンクール



鶴学園創立50周年記念事業の一環として「読書感想文コンクール」が実施されました。この感想文コンクールは「鶴学園の『生い立ちと教育精神』」を読んだ感想文を募集したものです。多数の応募がありましたが、本校からは7名の生徒の感想文が入賞作品として選考され、佐藤広宙君(高I-5)は最優秀賞として選ばれました。

中学校を卒業し高等学校に進学する節目に一冊の本と出会いました。この本との出会いは、私のこれまでの生き方を反省させ、今後はこうありたいと願う理想への決意を表明させるきっかけとなりました。教育に全生涯をかけ、信念を持って生き抜いた先人達の生き様に惹かれ、少しでも近づきたいと思いました。その為にも先人達の結晶であるこの学園で高校生活が送れることへの感謝の気持ちを忘れずに、様々なことに前向きに取り組んでいきたいと思います。(高校I年5組 佐藤 広宙)

入賞者リスト	
最優秀賞	佐藤 広宙 (I-5)
特選(高校生の部)	大塚 桃子 (II-3)
特選(中学生の部)	倉光 浄 (2-1)
入選(高校生の部)	原田 礼花 (II-4)
入選(中学生の部)	岩田 皆子 (2-2)
	長谷 純一 (I-5)
	平田 悠樹 (3-1)

## 芸術鑑賞

### 『近くて遠い国日本の民俗楽器による演奏会』

6月23日(土)、佐伯区民文化センターホールにて、さまざまな和楽器演奏者によって構成される日本音楽集団による演奏会を鑑賞しました。演奏会では、「ボレロ」「白鳥」「剣の舞」など生徒たちも一度は耳にしたことがあるような曲から、「鹿の遠音」「八千代獅子」「平家物語」といった日本の伝統的な曲、さらには現代音楽まで、時代やジャンルにとらわれない幅広い曲目が演奏されました。また、団員の方による琵琶・三味線とい

った和楽器の構造・特徴の詳しい紹介や生徒たちによる小鼓体験のワークショップも行われました。小鼓体験のため舞台上上がった生徒たちは団員の方の丁寧な指導のもと苦労しながらも一生懸命演奏していました。生徒達にとって、この体験は貴重なものとなったことでしょう。普段、和楽器になじみのない生徒達にとって、今回の演奏会は和楽器のすばらしさや可能性を感じる良い機会となりました。



# 東大・京大・阪大をはじめ、多くの生徒が 国公立大学に合格!

2008大学入試 合格状況 (2008.4月3日現在)

卒業生196名(男子120名、女子76名)

私立大学

大学	合格数	内訳	
		男子	女子
北海道医療大	3	3	
酪農学園大	2		2
奥羽大	1	1	
埼玉医科大	1		1
獨協大	1		1
千葉科学大	1	1	
明海大	1	1	
青山学院大	10	10	
桜美林大	1		1
慶應義塾大	2	1	1
国学院大	1	1	
国際基督教大	1		1
駒澤大	1	1	
駒澤女子大	1		1
芝浦工業大	5	5	
上智大	3	1	2
白百合女子大	1		1
成蹊大	3	3	
成城大	2	1	1
専修大	4	3	1
創価大	2	2	
拓殖大	1		1
玉川大	1	1	
多摩大	1		1
多摩美術大	1		1
中央大	18	15	3
帝京大	1	1	
東海大	1	1	
東京工大	1	1	
東京電気大	1	1	
東京農業大	17	15	2
東京理科大	14	14	
日本女子大	2		2
日本大	10	7	3

大学	合格数	内訳	
		男子	女子
日本歯科大	1	1	
法政大	7	6	1
武蔵工業大	2	2	
武蔵野大	2		2
武蔵野美術大	1		1
明治大	12	7	5
明治学院大	2	1	1
目白大	1		1
立教大	6	5	1
立正大	1		1
早稲田大	13	7	6
麻布大	1	1	
神奈川工科大	1	1	
神奈川歯科大	1	1	
聖マリアンヌ医科大	1		1
神奈川大	1	1	
朝日大	1	1	
愛知学院大	2	2	
中京大	5	2	3
名古屋学院大	1	1	
南山大	2	2	
大谷大	1		1
京都産業大	5	2	3
京都女子大	3		3
京都精華大	2	1	1
京都橘大	2	2	
京都薬科大	1	1	
同志社女子大	3		3
同志社大	26	24	2
佛敎大	1		1
立命館大	69	53	16
龍谷大	8	5	3
大阪大谷大	1		1
大阪経済大	3	3	

大学	合格数	内訳	
		男子	女子
大阪芸術大	3		3
大阪電気通信大	1	1	
大阪工業大	4	4	
大阪人間科学大	2	2	
大阪薬科大	2	1	1
関西外国語大	3	1	2
関西大	34	29	5
近畿大	24	19	5
摂南大	3	2	1
武蔵川女子大	1		1
関西福祉大	2	2	
関西学院大	21	14	7
甲南大	11	9	2
岡山理科大	1	1	
吉備国際大	1	1	
就実大	1	1	
清心女子大	1	1	
エリザベト音楽大	1		1
日赤広島看護大	2	1	1
比治山大	1	1	
広島工業大	9	8	1
広島国際大	5	2	3
広島修道大	27	8	19
広島女学院大	7	7	
広島文教女子大	1		1
福山大	2	1	1
安田女子大	19		19
久留米大	1	1	
西南学院大	1	1	
福岡医療福祉大	1	1	
福岡歯科大	1	1	
福岡大	6	3	3
立命館アジア大	4	2	2
九州看護福祉大	1		1

国立大学

大学	合格数	内訳	
		男子	女子
北海道大	2	1	1
帯広畜産大	1		1
筑波大	2	2	
お茶の水女子大	1		1
電気通信大	2	2	
埼玉大	1	1	
東京大	3	1	2
東京芸術大	1	1	
東京学芸大	3		3
東京工業大	2	2	
東京農工大	2	2	
一橋大	2	1	1
横浜国立大	1	1	
横井大	1	1	
名古屋工業大	1	1	
名古屋大	2	2	
京大	2	2	
大阪大	2	1	1
神戸大	3	3	
鳥取大	4	3	1
島根大	3	3	
岡山大	1	1	
広島大	20	10	10
山口大	13	7	6
愛媛大	4	4	
高知大	2	1	1
九州工業大	3	3	
九州大	8	8	
福岡教育大	1	1	

公立大学

大学	合格数	内訳	
		男子	女子
首都大学東京	3	2	1
京都市立芸術大	1		1
大阪府立大	1		1
兵庫県立大	1	1	
尾道大	1	1	
県立広島大	5	3	2
広島市立大	1	1	
下関市立大	1	1	
山口県立大	1	1	
北九州市立大	1	1	
九州歯科大	1	1	
福岡県立大	2		2

海外大学

ハンガリー国立セゲド大	1	1	
-------------	---	---	--

短期大学

青山学院女子短大	1		1
東京農大短大部	1	1	
山陽女子短大	1		1

専門学校

広島県立三次看護専門	1		1
広島県理容美容専門	1	1	
名古屋コミュニケーション専門	1		1

大専校等

防衛医科大学校	1		1
海上保安学校	1	1	

合計	合格数	内訳	
		男子	女子
私立大学	509	334	175
国公立大学	114	73	41

(過年度生を含む)

## 同窓会予告

## なつかしの旧校舎見学

母校の新築移転に伴い、20年度中に解体が予定されている旧校舎をなつかしい思い出とともにめぐりませんか?

日時等の詳細は未定ですが、参加希望の方は、メールをお送りください。詳しい内容が決まり次第お知らせいたします。

E-mail/[dousoukai@it-hiroshima.ed.jp](mailto:dousoukai@it-hiroshima.ed.jp)



## 同窓会 会員住所印字サービス開始

案内をする側も、受け取る側も安心! クラス会や学年会の開催案内にお役立てください。

個人情報保護法の施行以来、同窓生の個人情報につきましては学校の事務長が保管・管理し、外部への持ち出しを禁止しております。

しかしながら、同窓会会員からは、クラス会や学年会を開催したいと名簿の要請があります。

そこで同窓会では、同窓会専用封筒に宛名を直に印

刷するサービスを行うこととしました。

利用者が、用意した封入物は学校内で封入し、利用者に封筒を渡すことなく学校から直接郵送します。

個人情報の流出防止に細心の注意を払っています。安心してご利用ください。



くわしくは学校の事務長までお問合せください。 ☎(082)921-2137

## 同窓会 会則改正のお知らせ

本年度より本会の正会員は、広島工業大学附属広島高等学校・中学校および広島なぎさ中学校・高等学校の卒業生とします。